

東北地方太平洋沖地震－1

3月14日（月）

被害にあわれた東北地方の皆さんに心からお見舞い申し上げます。

余震がまだ続く中、懸命な救助活動が進められています。多くの人の命が救われることを祈っています。

3月11日（金）の地震発生後しばらくは携帯電話（メール）が通じていたのですが、夜7時頃から通じにくくなりました。夜7時に発信したものが真夜中の2時に届くような状態でした。

一方、土曜日から日曜日にかけてはチェーンメール（『このメールをできるだけ多くの人に送信してください』）が飛び交いました。

現地では携帯電話などで安否確認や情報収集をしようにも通じにくい状況が続いています。通信資源を確保するためには、善意であってもこのようなチェーンメールは控えた方が良いでしょう。

東北地方太平洋沖地震－2

3月15日（火）

被災から5日目。死者が5000人を超えました。

家族や財産を一瞬で失った人々。それでも皆さんは避難所などで秩序正しく助け合って生活しておられます。

自分にできることはないかともどかしい思いをしている人も多いと思います。現地では水、食料品、医薬品、日用品が不足していると報道されています。しかし、今の時点では、輸送手段がないため「物」での支援は控えた方が良いでしょう。

各団体が実施している『義援金』で支援していきましょう。

（『義援金』詐欺も起こっていますので、信頼できる団体窓口に募金してください）

東北地方太平洋沖地震－3

3月15日（火）

11日の地震発生の後13日の夜まで、TV各局は終日、字幕つきで地震を報道していました。NHKは断続的に字幕がつくだけでした。これは改善してもらいたいと思います。受信料を取っているのですから。

しかし、昨日（月曜）今日は字幕付きの局が減りました。字幕付きを探して、ひんぱんにチャンネルを切り替えています。

13日12時の首相官邸の会見に手話通訳がつかまりました。N.Z地震の時、現地の警察の会見に手話通訳が付いているのを見て羨ましかったことが実現しました。

さて、福島原発の事故が収まっていません。人体に影響を及ぼすほどの放射能が漏れています。このような時に聴覚障害者が的確な情報を得て避難するためには、政府の会見などの大きなことだけでなく、全ての情報に手話通訳、字幕があるべきと思います。

東北地方太平洋沖地震－4

3月15日（火）

被災地の皆さんを支援するため、NPO福山ろうあ協会と福山市聴覚障害者地域活動支援センターで募金を始めました。支援センターで行っていますので、ご協力をお願いします。

3月31日まで行います。

東北地方太平洋沖地震－５

３月１６日（水）

今日、びんご地方に季節外れの雪が舞いました。被災地は凍えていることでしょう。あらゆるものが不足している被災地に少しずつ支援物が届き始めています。

被災者の皆さんの生の声も伝わってきています。

地震の翌日に出産したお母さんが「こんな時に生まれた子だから私も強い気持ちで育てることができる。この子も強く育つだろう」。

津波で家屋を失った老夫婦が「何もかも失ったが、がんばって生きていこうと思う」。

スーパーの店員が「自宅も被災したが、今は必要な品物を皆さんに届けたい」。

昨夜（１５日）、７８歳の全盲の女性が救出されました。福島第１原発から１２キロの自宅で一人暮らし。１２日には２０キロ圏内の住民に避難指示が出ていました。「周りの人がみんなどこかに行ってしまった。助けてほしい」と１５日午後３時に警察に自分で通報し救出されました。

NHK教育テレビでは安否確認を流していますが、掲示してほしいと思ってもアクセス方法は電話だけになっていて聴覚障害者は利用できません。

東北地方太平洋沖地震－６

３月２０日（日）

この地震・津波は、死者７０００人、行方不明者１１０００人。そして３６万人の人が避難生活を余儀なくされています。消防署などの皆さんの文字通りの決死の放水で原発もこれ以上の被害拡大がストップ（？）。

ここ、びんご地方の日常生活には目立った変化はありませんが、東北の人の苦労を思いながらの生活。

各地の避難所の様子がテレビで報道されています。インタビューを受ける被災者のうしろに手話通訳者や要約筆記者がいらないかと探します。手話は目立つはずなのに見えません。どこの避難所にも聴覚障害者がいないのでしょうか。そんなはずはありません。３６万人の中には数千人の聴覚障害者がいるはず。地震発生から１０日、自助・共助から公助の段階に移って、手話通訳者派遣などの人的支援がそろそろ開始される時期です。早く、通訳者の姿を見たいものです。

避難所では皆さん、口々に情報が欲しいと話していました。普段は過剰なくらいあふれている情報。いざという時に必要な情報が得られない不安、もどかしさ。私たち聴覚障害者の毎日がそんなのです。そんな私たちがいきなり災害の真ただ中におかれたら・・・。

自助・共助の段階で聴覚障害者同士の自助による支援の方法の必要性を痛感しています。

東北地方太平洋沖地震－７

３月２１日（月）

避難所では多くの方がテレビを囲んでいます。最大の情報収集手段がテレビであることがうかがえます。しかし、字幕付き災害報道番組が激減しています。刻々と変わる状況を現地の聴覚障害者はどうやって知るのでしょうか。

首相官邸の会見には手話通訳がつかまりました。その後、広がっていません。計画停電をめぐる東京電力の会見、原子力安全・保安院の会見には手話通訳がつかえません。断片的に流れるテロップを頼りに事態を自己流に判断するしかありません。

夜道を車で走っていると町がいつもより暗く感じます。節電しているようです。人々はテレビで被災地の様子をテレビでじかに見、聞きします。そして、できることをやり始めています。

東北の人々や支援にあたる人々、広島県民がどんな思いなのか知りたくても、私たちには知りようがありません。輪に入れないもどかしさを感じます。

避難所には相変わらず手話や要約筆記者が見えません。聴覚障害者の心のケアのためにも過酷な体験を話せる相手が必要ではないかと思えます。

東北地方太平洋沖地震－８

３月２３日（水）

死者８５００人、不明者１８５００人。一瞬の災害で多くの命が失われました。名も顔も知らない遠い東北の皆さんですが、改めて、お一人おひとりのご冥福をお祈りします。

復興への道が少しずつ整い始めています。避難所で子どもたちが大人にまじって立ち働いている姿に勇気づけられます。過酷な現実にもかかわらず何事もなかったようなお年寄りの姿に人間のありようを考えさせられます。

ただ残念なことに、これほどたくさんの報道にもかかわらず障害者の生の姿が伝わりません。障害者はマスコミの中で優先順位が低いのでしょうか。テレビは視聴者の嗜好（視聴率）に敏感ですから、優先順位は民意の反映とも言えます。とどのつまり、未曾有の大災害のときには障害者どころではない？もしそうであれば、今、避難所でも同じように片隅に放置されているかもしれません。

深夜のニュース番組の字幕が消えました。福島原発近辺の放射線量が平常よりかなり高くなって不安が広がっています。政府は「人体に影響を及ぼすほどではない」と会見しています。テレビも食品の専門家をコメンテーターに起用して詳細に解説しています。字幕が不必要になった状況では決してありません。テレビ局の恣意に任せるのではなく、いま私たちの「We Love コミュニケーション」運動を完結させることで解決するしかないと思っています。

東北地方太平洋沖地震－９

３月２７日（日）

この数日、夜になると冷えこみます。東北の避難所の人々は燃料不足で震える日を過ごしています。死者が１万人を超えました。安否不明の人も２万人。

原発が予断を許さない状況で東日本に混乱が広がっています。びんご地方でもペットボトルの水が「お一人様〇本」と制限して販売されています。生活に影響が出はじめています。

安否不明者の搜索と並行して、道路、電気、水道などのライフラインが復旧し復興に向けて動き始めている地域も増えています。被災地の人々は家族や住居、仕事など、長い年月をかけて築きあげたものを一瞬で奪われました。それをできるだけ早く取り戻すため、国をあげての支援が求められています。被災地の行政も、住民にさまざまな情報を提供し相談窓口を開設しています。自身が被災者でありながら住民のために奔走する行政の皆さんの献身には心強いものがあります。ぜひ、聴覚障害者が情報提供や相談を十分な形で受けられるよう願っています。

東北地方太平洋沖地震－１０

３月３０日（水）

ボランティアの派遣が始まっています。避難所で食事の準備や支援物質の配布、高齢者のケア、

土砂やがれきの片付けなどの活動をしています。現地に負担をかけないため、(1) 食料や衣料、テントなどは自前、(2) 自分の安全と健康を自己管理する、(3) グループ単位で行動する、(4) 被災者の話を誠実に聞き、過度の行動は慎む、ことなどがボランティアの心構えとされています。

被災した車いす障害者の様子がNHK教育テレビの「福祉ネット」で放送されていました。小学校の避難所が閉鎖されることになり次の行き場を決めなくてははいけません。体のことを考えてアパートを探すのですが、車いすで自由に動ける物件は限られています。新生活を始めようにも障害者には困難がつきまといます。この番組は福祉に関心のある人を対象とした番組のようですが、こんな障害者の様子は一般ニュースで短時間でも良いから取り上げてほしいものです。災害は障害のある人、ない人に等しく襲いかかりましたが、立ち直る過程で障害者には壁がいたる所にあることを多くの人に知ってもらいたいです。

このコラムでは聴覚障害者の立場からテレビの手話通訳や字幕を取り上げてきました。災害の際、情報を得るために必要です。また、被災者のつらさや悲しみを遠く離れた私たちが共有するためにも必要なのです。字幕や手話通訳のないテレビを見る私たちは「同情」する権利を奪われているに等しいのです。

東北地方太平洋沖地震— 1 1

4月1日(金)

今回の東北の地震・津波・原発事故は「東日本大震災」と呼ぶことになりました。死者・安否不明者は28084人・・・空前の被害です。

復興のための補正予算のこと、復興構想会議の設置などを菅首相が4月1日の夕方の会見で語りました。これからどのようにして復興していくのか。日本はどうなるのか。日本に住むすべての人が心配しています。地震直後に匹敵する重要な節目の会見です。つい先日まで首相官邸の会見は手話通訳がついていました。大臣の作業服が背広に戻ったように、手話通訳も元に戻って消え去りました。あれは幻だったのか、単なるポーズでしかなかったのか・・・

東北地方太平洋沖地震— 1 2

4月5日(火)

死者・不明者3万人超。空前の大災害です。学術的な名前の「東北地方太平洋沖地震」から「東日本大震災」、おそらく歴史に残る呼称になりました。

地震発生から4週間たち、復旧・復興に本腰という時期ですが、終息の気配を見せない原発災害。東日本の広い地域が住居からの退去、農産物の出荷停止などで機能不全に陥っています。

先日、義援金を届けました。全国各地、世界中からの義援金とともに被災地の皆さんのために使われることでしょう。そういえば、年末年始に「タイガーマスク」が児童養護施設にランドセルをプレゼントしていました。そのニュースには暖かい気持ちになったものでした。今回は多くの方が被災地に支援の手を差し伸べました。有名人の驚くような高額義援金から、子どもたちが貯めてきたおかねまで。助けあい支えあうことでしか困難を乗り越えられないという思いからでしょうか。

そうであれば私たちはすばらしい教訓を得たこととなります。この支援センターも助けあい支えあう場でありたいという思いを新たにして、このコラムをいったん終わらせていただきます。